

スイス・ローザンヌ大学 仏像・仏書贈呈報告

横浜善光寺留学僧育英会第十二回奨学生
現 Swiss National Science Foundation 研究生

計 良 龍 成

昨年十二月十二日、スイス・ローザンヌ大学に、仏像と多数の仏書が曹洞宗大本山總持寺監院江川辰三老師と横浜善光寺留学僧育英会理事長黒田武志老師により寄贈された。そのことについて、そこに至るまでの経緯も含めて、簡単に報告したいと思う。

現在ヨーロッパでは、オーストリアのウィーン大学を初めとして、ドイツのハンブルグ大学、ゲッティンゲン大学、オランダのライデン大学

等の優れた仏教研究機関が存在するが、スイスのローザンヌ大学もその一つに数えることが出来るであろう。ローザンヌ大学における仏教研究は一九六八年、Jacques May氏が文学部東洋言語文化学科の教授に就任したことに始まり、一九九二年、J. May氏の後継者として、Tom J. F. Tillmans氏が大学に入り、現在に至るので、その歴史は比較的新しく、丁度今年で二十年目である。それ故、ローザンヌ大学の図書館には、

テキストを含め、仏教を研究するのに必要な書籍が十分に備わっておらず、しばしば不便を感じざるを得なかった。

一九九五年十月、そのローザンヌ大学に、筆者は第十二回横浜善光寺留学僧育英会奨学生として留学することを許された。既に多くの方々知られていると思うが、横浜善光寺留学僧育英会は、曹洞宗善光寺住職黒田武志老師が後輩達に国際性を身に付けさせる機会を与えるため始めたものである。このような海外留学奨学金制度は、本来なら、少なくとも宗門単位で為すべきことのようにも思えるが、残念ながら現在、曹洞宗には若手研究者を育成するための有効な奨学金制度はないようであるから、善光寺育英会は曹洞宗に関係する研究者達には、非常に貴重で且つありがたい存在である。

さて、筆者はスイスに渡航後、黒田理事長に葉書で二、三度、近況報告をかねて、ローザン

ヌ大学の研究環境状況を伝えた。そしてその際、図書館の仏教研究図書の不十分さを伝えたことが今回の仏書寄贈のきっかけとなったのである。黒田理事長はそのことを聞くと、スイスにおける仏教研究の発展とそこに留学する日本人研究者の便宜をはかるために、仏書を寄贈する計画を立てること申し出て下さった。筆者には、この計画を実行するには、多くの難関が待ち構えているように思われたのだが、しかし幸いにも、大本山總持寺監院江川辰三老師の御理解と御協力を得ることが出来たため、両師による仏書寄贈は、そう多くの困難もなく、実現される運びとなった。

寄贈された書籍は、曹洞宗の典籍を含めて、日本で出版された、インド、チベット、中国、日本仏教に関する研究書と校訂テキストで、総冊数にして、約二百冊である。ローザンヌ大学には日本語を理解する教授、学生は殆ど居らず、

また日本文学、文化等を研究する学科もないので、我々日本人留学生以外に、実際どれだけの人が、テキスト以外のこれら日本語の研究書を利用するかは分らないが、曹洞宗関係の書籍については、ヨーロッパに曹洞禅を伝えた弟子丸泰仙老師の弟子達が、スイスにも多数居るので、彼らがそれらを利用することになりそうである。

ローザンヌ大学図書館で行われた贈呈式には、会場の正面に今回書籍と共に贈呈された高さ約一メートルの白木彫りの釈迦牟尼仏が置かれ、既に延べたJ.May元教授、T.Tillemans教授、その他インド学専門のJohanes Bronkhorst教授、文学部長のWinistorfer Jörg氏、図書館長代理のSilvia Kimmeyer氏、宗教学科教授のMaya Burger氏等に学生も加えて、多くの方々が出席し、江川監院を導師として、簡略な法要が行われた。図書館関係者の話しによると、大学の図

書館の一室が、聖なる空間と変わることとなったのは、図書館の歴史上初めてのことだそうである。式の後、出席者一同、共に夕食を摂り、和やかな一時を過した。

さて、今回のスイス・ローザンヌ大学への仏像・仏書の贈呈は、筆者を含め、スイスにおいて仏教を研究する者達にとつては、非常に意義あることであり、また感謝すべきことである。

そしてこの贈呈の意義の大きさは、既に確定されたことではなく、これから我々によって明らかにされていかねばならないことである。江川監院老師と黒田老師の御好意と御期待に応えられよう、感謝の心を以て、一同努力してゆきたいと思う。